

●事例紹介●

まちが教室

学生参加によるへ人間へ活性化プロジェクト

鎗田 英三

(駿河台大学経済学部長・学生参加によるへ人間へ活性化プロジェクト実行委員長)

人間プロジェクトの目的

【アウト・キャンパス・スタディ】

今の大学生には、特にコミュニケーション能力、社会性、職業観が欠如していると多くの大学で指摘されている。その原因の一端は、大学教育にもあるのではないか。これまでの大学教育では、大学の教員による教室での知識の伝授が中心におかれ、社会性や職業観の涵養は等閑視されてきたためではないだろうか。

そんな反省から、大学の外の社会(入間市)を教室にし、地域社会のさまざまな職業・年代・考えを持った人たちに先生とする、知識ではなく生活・人生を体感させる教育

(アウト・キャンパス・スタディ)が必要であるとの結論に至り、私たちは、「学生参加によるへ人間へ活性化プロジェクト(略称人間プロジェクト)」を立ち上げた。ボランティアやいろいろなまちの活動に参加することによって、大学で学んだ知識、パソコンなどの技術・能力を活用して血肉化するだけでなく、いろいろな企画・運営やリサーチを通して問題を発見し解決する能力やいろいろな人との交流によってコミュニケーション能力を身につけることが目的とされているのである。社会からは即戦力が求められ、今の学生はなかなか自信が持てずに立ちすくんでしまっている。彼らが少しでも自信を持ち、生きる力を身につけてもらうために、肩を押してあげる、そんな教員の気持ちも込められている。

【地域と大学の共生】

もう一つの目的は、大学の地域貢献である。本学は「地域社会の中核を形成する人材の養成」を中心的な教育目標にしており、その実現のためにも、地域の人びとに開かれた大学として地域の社会、経済、文化に貢献し、地域と共生するのが必要不可欠だからである。以上の趣旨が認められ、本プロジェクトは平成一六年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されたのである。

人間プロジェクトの特徴

【産・官・学連携】

このプロジェクトの特徴の第一は、産・官・学の連携の下、市民活動団体や商店街も一体となって進められていることである。本学と入間市役所・入間市商工会は、このプロジェクトのためにパートナーシップ協定を締結した。だが、この協力体制は泥縄ではなく、三年前より、本学経済学部と入間市・入間市商工会が、「元気な人間ものづくりネットワーク」をつくり、共同で入間地域でのものづくりの活性化に努力してきたのである。その実績を踏まえ、今回は三者に商店街・地域通貨などの市民団体を加え、まちぐるみでのものづくり、人づくり、まちづくりに取り組む体

まれているものの、特定教員・研究室、学科単位の取組がほとんどである。それに対し、本プロジェクトは、副学長を室長にした地域ネットワーク推進支援室を中心に全学的に取り組まれている。全学で全教員の四割に当たる五〇名近くの教員がプロジェクト委員として学長に任命され、活動しているのである。それは、プロジェクトを本学のアウト・キャンパス・スタディの重要な柱と位置づけ、正規の本学教育に組み入れているからである。ポランテシア、インターンシップなどの活動を一定時間以上し、活動報告書およびレポートを提出し、担当教員によって評価を受け、「まちづくり実践」(二単位)、「インターンシップA」(体験実習型、四単位)、「インターンシップB」(理論学習型、二単位)の単位を履修することができる。そして、これらの科目は、副専攻科目として、全学部の学生が履修するのが可能になっている。

人間プロジェクトの内容

(一) 駿大ふれあいハウス

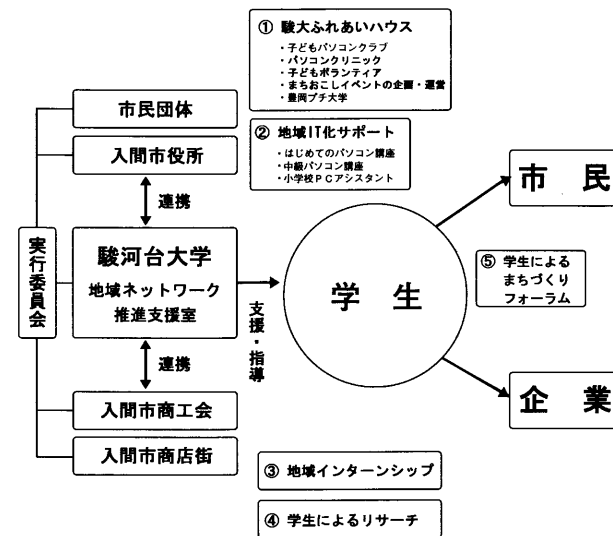
活動の中心は、入間市の中心地に二〇〇四年二月一日に開設された「駿大ふれあいハウス」である。「ハウス」を拠点に、多様な活動が展開されている。

制ができあがったのである。人間プロジェクトの組織と活動を図示すると次のようになる(図)。

【大学全体の取組】

たしかに、大学の地域との連携は今多くの大学で取り組

図 人間プロジェクト組織・活動図



① パソコンクリニック……パソコンの使い方やトラブルが起こったという市民の相談に学生がのっている。

② まちおこしイベントの企画・運営……まちのいろいろな祭りやイベントの企画・運営に学生が市民と一緒に参加している。四月のおとうろう祭りには、実行委員会にも出席して、市民と企画・準備を行い、祭りの二日間わたって、延べ一五〇人の学生が参加し、山車をひいたり、子ども広場の運営や自分たちで作った食品の販売などを行った。

③ 子どもパソコンクラブ……小学生にパソコンを教える。現在、二期生が終了。教材の作成、教え方の検討やクラブの運営など学生がすべて自主的に行っている。

④ 中国語しゃべり場……中国語を勉強している市民が中国からの留学生とおしゃべりを楽しむ。

⑤ 豊岡ブチ大学……本学教員のハウス



でのミニ講座を学生が企画・運営する。

(二) 地域IT化サポート

① はじめてのパソコン講座……まったくの初心者に大学の教室を使って学生が教えている。テキストの作成だけでなく、授業の運営も学生が行っている。

② 中級パソコン講座……教員が教え、学生がアシスタントをつとめている。

③ 小学校パソコンアシスタント……学生が小学校のパソコンの授業をサポートしている。

(三) 地域インターンシップ

入間市を中心とした地域企業、自治体、NPOでの地域インターンシップに全学部から平成一七年度には五二名の学生が参加している。

(四) 学生によるリサーチ

① 企業インタビュー……入間市商工会と協力して行った。
 ② 商品・サービスの企画とマーケティング……「脱臭液の市場化」プロジェクトは、昨年製品のモニタリングを行い、今年度は夏以降第二フェーズに入り、商品化のための企画、調査を行っている。

(五) その他

① 子どもボランティア……託児施設や保育園で育児ボランティアをしている。一期には四〇名が登録。現在二期目。

るが、教員が敷いたレールを歩んでいくのではなく、学生が自立的に活動するよう心がけている。学生の反応はどうか。写真からも分かるように、彼等は「キャンパスの中であんなにいきいきした顔を見たことがない」といわれるほど実にいきいきしている。参加学生の延べ総数は、四〇〇名以上に達し、いま、一〇〇時間以上の活動を行い、単位に関係なく諸活動が続けている学生が何人も現れている。レポートから、学生が「まちの教室」から教員の予想以上に多くのことを学んでいるのが分かる。

● 「現代人が忘れていた『思いやり』や『譲り合い』の大切さを改めて園児たちから教えられた気がしました」

(子どもボランティアに参加した二年男子)

● 「良い結果だけではなく、良い結果が出なかったことも重要である、ということ学びました」

(学生によるリサーチ、三年女子)

● 「パソコンスキルの向上だけでなく、企画力やコミュニケーション能力を身に付けることができました」

(「IT化サポート」、三年女子)

● 「私は子どもたち向けのゲームの企画、作成、ゲームに参加してくれた子どもたちへの商品としてあげる景品を集めるという作業を行った。……入間市の文具店、おもちゃ屋、デパートなどに何度も足を運び、実際に店長さんに会い、交渉をしたり、企画書、お礼状などの作成なども行った。……何も

② 映像番組をつくる……児童セン

ターのプラネタリウムを舞台にCGを使って子どもと一緒に映像番組を作成中。秋の生涯学習フェスティバルで発表の予定である。

③ FMチャッピー(茶筌) オンエ

ア……入間市のFMラジオ局から毎月、「入間プロジェクト」の活動を市民に知らせる番組を学生が企画し、学生が放送している。

④ 学生によるまちづくりフォーラム……いろいろな活動に参加した学生を中心に活動の報告会とシンポジウムを秋の入間市の生涯学習フェスティバルで開催し、市民と一緒にまちづくりを考える。

⑤ 通学合宿サポーター……青少年活動センターでの小学生の通学合宿に子どもと一緒に泊り込み、子どもたちのサポートを行っている。

学生いきいき

このように入間プロジェクトの活動は多岐にわたってい



ない状態から考えて実行していくことはとても大変なことだけれども、それ以上に達成感や充実感、感動を得ることができた。……自分の知らなかった世界に入り込んでいくことで、自分自身も成長できると思う」(お祭りに参加した三年女子)

地域の反応

今回のプロジェクトの活動に対して、入間市民の反応は予想をはるかにこえている。ふれあいハウスの一日平均の利用者数は三〇名前後に達しており、初めてのパソコン講座では、定員を大幅に超える三〇〇人以上の応募があり、講座の増設を行ったほどである。パソコン講座の受講者の次の感謝の便りから「新たな学生像」が市民に定着していることが分かる。

「学生さん方は、生徒が年長でさぞ緊張もされ、神経も使われたことごさいます。誠心誠意、真面目に取り組んでおいでの姿を目の当たりにして、感激しました。志す学問の道に精進するのは当然のことですが、今日の一般的な大学生像が変わりました。近くに在る御大学が、急に大きく意識され、親しみもわきました。また何かに参加させていただきたいと思えます(以下省略)」